# 概要

イリウス建国者のイーリアス1世が啓いたとされる宗教。パグンタランイチロデコロンゴン王国でも信仰されていた。この宗教は当時の王の都合のよい内容しかない。

唯一神はハメール・イーリアスで、これはイーリアス自身がモチーフとなっている。神話の内容はハメールが争いを続ける人間に対して、なんとか止めさせるというもの。

# 生活

この宗教は日常生活に密接に関わる宗教で、日常と一体化している。現実世界ではイスラム教に近い。

## 衣食について

これは現実のイスラム教と同じく、厳しい制約がある。外出時の服装はガメノ(民族衣装)のみを着るものとし、輸入した外国の服は家でのみ着用が許されている。服を販売するのに政府の許可が必要など、服装に対する制約は厳しい。因みにガメノは意外にも和風衣装で男性は神主風、女性は巫女風の衣装で、海外からの人気も高い。

食事は犬・猿・烏などが主食になっている。アリシアでも犬は人気のペットなので、犬を食べる民族はイーリア教信仰地域くらいしかない。犬・猿・烏を食べるのは神の使い(もともとイーリアス王が飼っていたペット)だから。神の使いには神の力が宿っているとされており、食べれば神の力が手に入ると言われている。逆に、海洋生物は神が食べるものとされており、食べない。しかし、鮫は神の食べ物を横取りする悪魔の生き物とされており、これは捕獲して食べることで神様を喜ばせている。フカヒレはイリウスの伝統料理になっている。

## 住について

イリウスは気候上、雪が多く気温もかなり低いため、住宅にはかなりの工夫がされている。雪の重みに耐えられるための頑丈な構造が編み出されたが、それでも潰されてしまって越冬の際に大勢の犠牲者が出て、大きな問題になっていた。

それをイーリアス王は祟りと捉え、それを鎮めるために住宅を作る際に生贄を用意していた。生贄を捧げて住宅を建設することで、そのような事故は激減した(諸説あり)。以降、住宅を建てる際は生贄を捧げることにした。礼拝所(イーリン)を建設する際は、住宅のときよりも多い生贄を差し出していた。

生贄の扱いは降雪量、建物の規模によって変動する。軽いものだと屋根の上に固定されて一晩放置される程度で済むが、重いものだと生き埋めにされそのまま亡くなる。なお、生贄は全国民のうち、16歳以上の男女から無作為に選ばれる。拒否権はない。

この風習は今も消えずに残っている。